

『真歇和尚拈古抄』(下)

大智の新出資料として

安 藤 嘉 則

はじめに

本稿は、『駒沢女子短期大学研究紀要』第二十六号の拙稿の続篇である。この(上)(下)二篇において、大智禪師の撰述と目される『真歇和尚拈古抄』(以下『拈古抄』と略)という文献を全文翻刻し、大智研究の一助とするものである。この『拈古抄』の資料的意義については、『宗学研究』(曹洞宗宗学研究所編)第三五号において已に言及したが、⁽¹⁾本書に関するその他の諸問題について若干付記してみたい。

まず本書に引用された真歇の資料として注目されるのが、本書(三二丁、表)に引用される真歇の自賛である。

真歇和尚自賛云、信口胡説、七差八錯、万劫千生、不妨快活、情願死生、輪回肯求、諸聖解脱、誰云遍界没遮欄、雲過青山雲一株。この自賛は、明和四年の面山刊行の『真歇和尚劫外録』に所収され、これが正統藏経、第一輯、第二篇、第一一七冊に転載されたものと目

されるが、面山はこの自賛について「出大智拈古鈔」と注記しており、大智の『拈古抄』が典拠であったことが知られる。そしてこの面山の記述の通り、今回紹介した玉宝寺藏『拈古抄』にこれを確認することができたのである。

またこの『拈古抄』は、『天童小参抄』(以下『小参抄』と略)という文献を研究する上でも、一つの手がかりを与えられると思われる。この『小参抄』とは従来大智撰といわれ、面山もこれを大智の著作(聞書抄)として認めるものであるが、通幻寂霊や了庵慧明らの注解も混在しており、その成立については複雑な問題が存在している。⁽²⁾しかしここに大智のもう一方の語録抄が確認されたことにより、両者を比較検討し、使用語彙や、引用する経文、古則、そしてその拈提・注解方法を見ることがよって、間接的ながらも大智自身の注解部分を見い出す一助となるであろう。

前記の拙稿では、特に「徹證」なる語に注目し、両書にこれが多く

類出することから、大智の言語的特徴としてこれを検討すべきことを指摘した。⁽³⁾ 因に「徹證」なる語は、『正法眼蔵』では用いられず、『伝光録』に二例用いられるのみである。⁽⁴⁾ そして『伝光録』の用例では、「真箇の徹證、子細に驗點し将来て」(第三十五祖章)、「弱冠^{ニシテ}出家^シ徹^ニ證^ス於芙蓉^ノ之室^ニ」(第四十六祖章)という文脈として用いられるが、『拈古抄』や『小参抄』では、「自己^ニ徹證^{スレバ}」、「那邊徹證」、「本位徹證」、「大徹證ノ道人」として用いられており、この用語の用いられ方に特徴的な点を見出すことができる。無論この点については、中世洞門の抄物文献全体を視野に入れて言及すべきであり、事実いくつかの門参類に数例確認できるが、管見による限り、この「徹證」なる語の多用は、大智の言語的特徴の一つであると推測する。

しかしながら『小参抄』では、以下の文に見るように、明らかに了庵慧明の語として用いられている例も確認されるのであり、若干の問題点も残る。

無心道者能如是、未得^ニ無心^ニ也大難、明和尚^ノ註曰、這小参ノ初ハ靈雲悟道ヲ舉シ、其後ハ靈雲三十年間、道及ビ徹證^{シテ}到^ニ不疑地^ニ處ヲ、打^レ骨敲^レ髓舉唱ス、次ニハ那邊親徹證^ヲ著到シテ、然シテ後、如幻三昧ノ中ニ游戲、騎^レ聲跨^レ色無^ニ滲漏^ニ、自在ニ行履スル處ヲ舉ス、凡門門一切於^レ境、不^レ取不^レ捨、故ニ回互不回互ノ説アリ、如此ノ大自在安穩ノ落者ノ處、只無心無依、無稜縫ノ漢ナル故ニ、無心道者能如此、未^レ得^ニ無心^ニ也大難ト云、(一一八、下)尚、ここに紹介した玉宝寺藏『拈古抄』は『信心銘』の偈文で示すと、「十方智者 皆入此宗」までの眞歇の拈古を注解したものであり、

もし完本ではない。もし完本であれば、『大智偈頌』に収録された『跋歇和尚拈古』も、その後序に見られたのかもしれないが、残念ながら確認することはできない。

(1)「玉宝寺藏『眞歇和尚拈古抄(仮題)』について——大智の新出資料として——」『宗学研究』第三十五号

(2)筆者は『天童小参抄』について(『宗学研究』第三十三号)においてこの問題について考察したが、その後、納富常大氏によって『天童小参抄下』(横浜市教育委員会刊 平成五年)が刊行された。本書は現存の『小参抄』の写本の中で、おそらく最古に位置する雲松院(横浜市小机)藏本の翻刻ならびに研究であり、『続曹洞宗全書』所収の翻刻本(駒大本)で欠落した後半部に相当するものである。特にその後記には、『小参抄』成立の問題について注目すべき一文があり、『小参抄』研究における本書の刊行は、大きな意義がある。

(3)尚、拙稿では『小参抄』における經典からの引用部分や「徹證」の用例を『続曹洞宗全書』で翻刻された部分に限定して蒐集した旨を付記しなかった。その後筆者が知る限りでは、「徹證」なる用例は、駒大本の第一——一八の小参の前半分で七六例(1)の拙稿を訂正)、後半部(註(2)の雲松院を参照)で一〇五例ほど見出した。

(4)この『伝光録』の用例については、竹内弘道氏の御教示を得た。

(三五、オ) △放之——住、注云、真个放得下スト者、大無心徹證平常ノ田地ニ到ルヲ云。些子ノ悟処ヲ云ニ非ス。鉢無去住ト者、已大無心平常無事ノ田地ニ徹證スレハ、徐行蹈斷流水声、縱觀寫出飛禽跡、来無所住、去無所至。金剛般若ニ云、無所從來、亦無所去、故名如來。○放之自然ナリト者、放下ノ平常自然天真ノ道ニ合ヲ云。已ニ天真自然ノ道ニ合フ時、放下ノ道理モ也無、故ニ放(箇甚)ト云。這箇ノ境界明眼人ニノ始テ得ベシ。

△任性——惱、注云、任性合道ト者、已ニ平常自然天真ノ道ニ合ヒヌレハ、只是打睡シ、随分普請ノ擇菜、喫茶說話ノ、任(過)日。甚ノ相擾(カ)アラシ。○一(齊)卸却、注云、已大無事ノ境界ニ到得ツレハ、

六根門頭一時ニ休歇ノ、自然ニ虛靜閑々地、世法仏法不(相)惱乱、一切ノ(三五、ウ)根塵四大、語默動靜、禪道仏法一(齊)卸却ノ、稜縫ナク、芒角絶ノ繫絆ナキ無為閑道人トナル。○卸ト者、ヲロスト是ヲ□ム。又ハ脱スル兒也。○到頭霜夜月、任運落前溪、注云、此句ハ常ノ現成ノ句ナカラ□ニ子任運ノ眼ヲ具メ見ルベシ。

△繫念——如、注云、纔心ニ擬シ、念ヲ繫レハ、真ニ乖ク、此句ニ注之了ル。○注云、已前ニ任性合道、逍遙ノ絶(惱)ト掌スルハ、大無心無事ノ人ノ境界ヲ、今繫念真昏沈スルハ好ラスト云ハ、今時參不透ノ人ノ所作所為ノ事ヲ説テ、是ヲ慚愧セシムル也。別ニ無(道理)一。今時參不透ノ漢ハ、情ヲノ體證スル(不)能。有時ハ一向有縁ヲ逐ヒ、有時ハ一向空忍ニ住シ、塵勞ノ念ヲ休テ、淨妙ノ境ヲ愛スル、是皆生死ノ心ナリ。天真ノ道ニ乖(ソムク)。況亦體體中皮袋裡(三六、オ)昏々念々流注シ、念々起滅セバ、參(スルモ)到三生六十劫、只是鬼窟ノ中ノ精魅ナリ。有(甚)

解脫ノ期。

△不好——親、注云、不思議天真大無心無事ノ境界ニ得(マ)リ得ス。一向胸中暗昏昏々地生死ノ心不破、有時ハ昏沈シ、有時散乱シ、タトヒ身心暫時澄靜ナル時節アルモ、只是想心ノ中ノ淨相ナリ。實ニ大無心不思議忘失ノ本妙ニ達セサレバ、靜相不脱已見分明精明湛不揺ノ地ニ到ルトイヘトモ、鏡ニ向テ蛾眉ヲ盈キ、頭ニ迷テ影ヲ認トナス。道ニ於テ轉遠シ。若生死心不忙失無功用大解脫ノ本妙ニ合ヒ得、永劫ニモ忙失アル(不)無力故ニ、十二時中ノ平等ニ使用メ、疎ナク、親ナク、見時ハ有リ、不(レ)觀時ハ無カルベカラス。故ニ古人云、活句下薦得永劫不妄、死句下薦得(三六、オ)自救不了ト者、是也。○向(不)用心(不)得(不)處——察、注云、一般ノ瞎漢一向心識意想ノ中ニ去テ、心ヲ生シ、情ヲ起テ、情識ノ中ニ度量承當解會スル(不)作ス。爭(カ)天真不思議ノ活句ニ參得スル(不)得。故心路ニ搜求シ、意根捏搦セハ、有什交涉ト云。只須思量不及ノ處ニ用心シ、不(レ)得(不)處ニ精彩ヲ打辨メ是ヲ着ヨ。忽然トノ生死心破噴地一發ノ時節到来セハ、自然天真本妙現前メ、不疑ノ地ニ到ルベシ。這時如(人)飯水冷暖自知、不(レ)可(レ)説(示)於人。此時何ノ思慮ヲ苦メ、神心ヲ勞スル(不)カアラン。古人云、擬(下)將(二)心意(一)學(中)玄宗(上)△欲趣一乘——塵、注云、秦樓歌——風——通ノ田地ニ到得テ、声色ノ中ニ安眠シ、隨類スル(不)妨。故ニ云、外道六師是你師彼師所隨你也。源随ト云ニ、外道者外境、(三六、ウ)六師者色声香味觸法ノ六塵也。實ニ大無事大休大歇大安穩ノ場ニ參徹セス。當世猿引ガ種類ノ所執(スル)惡、無碍放逸無慚ノ者ノ解スル境界外ニ排ス、審(レ)之。○内心外境虛——物也、注云、内心ヨリ外ノ山河大地尽十方虛空、一タヒ大無心大休

歇ノ田地ニ徹證スレハ、尽十方虚空内外ノ心法、咸ク般若ノ全軀也。

是ヲ妙明真心之所現ノ物ト云。華嚴大經ニ三界唯心ト道場ヲ作テ説クニ不同也。詳之。○已大徹證ノ人ノ面前ノ境界、一切随處自在ナル故

ニ、塵々法々尔念々尔、尽皆無功用不妄失、那伽大定ノ中ノ三昧正受ナル故ニ、恁ルニ云、此人ノ行履、入林不動草、入水不動破、見山不是山、見水不是水、無有ニ法定有ノ自体、甚ハ處ニ得見聞声色来シ。

○要見祖師「麼山虛風落石——門、注云、現成底ニ非ス。只虚空ニノ分明ニ（三七、ウ）現成スル。△此注ハ重テ御注アルト見エタリ。

別ニ裏ニアリ。

○大無心ニ徹證スト者、枯木岩前孤危死底ノ無心ニ非ス。大惣持三昧、不忙失不思議ノ妙ニ徹證スルヲ云。此妙ハ所謂本有天然ノ妙也。功勳修進ノ及フ處ニ非ス。功々後ニ至テ、此大事有ルヲ知ルベシ。○功

勳修進ノ無心トハ、タトヒ見尽情妄シメテ、依ナク倚ナク、兀々無心ナリト雖モ、鳳_ニ蒼梧_ニ、竜_ニ卧_ニ碧潭_ニ。ユベニ猶是途路ノ活計ナリ。故ニ

声色ノ裏ニ負随_メ、随處自在ナルヲアタハス。燃灯ノ後ニ功々ノ位ニ徹證_メ、能照ノ人、所照ノ法ナキカ故ニ、此時ハジメテ内心外境虚空

大地、咸是妙明ノ真心ノ中ノ所現ノ物ナルヲ不疑。○秦樓歌夜月、魏閣醉春風ト者、家國頃亡シテ後ノ事ナルベシ。容易ニ参スルヲ莫レ。

至祝。○外道六師是尔師彼師所墮、你須_ニ墮_ニト云モ、（三八、オ）秦樓魏閣家國頃亡ノ後ノ事ヲ云、皆是一類ノ語也。○内心外境虚空大

地、咸是妙明真中所現、物伝ニモ細ニ参スル時ニ二ノ眼アリ。一ニハ共功一色辺ニモ此眼アリ。所謂尽十方世界、無纖毫過患。猶是轉句ト

云時ハ、内心外境咸是妙明真心中所現ノ物ナルベシ。シカレドモ猶是

轉句ト奪時ハ半途ノ得カ也。燃灯ノ後ノ事ニ非ス、是一ノ眼アリ。○

眞実ニ論_レ之則_ニ、内心外境妙明真心中所現ノ物ヲ十成ニ放過スルハ、燃灯ノ後ノ事ヲ云。所謂、秦樓歌夜月、魏_ニ閣_ニ。○家國頃亡ノ

後ノ事也。十牛ノ圖ノ第八○。此円相是家國ノ頃亡ヲ拳スル。第九ノ圖ハ、秦樓魏閣、並外道六師、是你師彼師所墮你也、随墮ト云ヲ拳ス。

具眠者辨取セヨ。第八第九、○相ハ一色辺ニ非ス。○一色辺ノ事ヲ拳スル時云處ト、功勳ノ外ニ拳スルト、其眼相似ス（三八、ウ）ル處、祖

師ノ説法ニ處々ニ是多シ。来機赴ク語未熟ニ随テ、是ハ眞常一色共功

無辨處ヲ拳スト見衍乎ミ、是ハ燃灯ノ後ノ事ヲ拳スト分明ニ是ヲ別

シ、ワクベシ。○十方薄伽梵一路涅槃門ト乾峯拳セラル、句モ、眞常

一色辺ノ事ヲ拳スル欵。

○蓮華峰ノ禪庵主、拈_ニ桂杖_ニ云、古人到_ニ這裡_ニ、為_ニ甚_ニ不肯住_ニ、衆無對、自代云、為他途路不得力大有眼哉、私拳云、途路事即不問、如何

是来出門句。△垂示云、道無_ニ定乱_ニ、法離_ニ見知_ニ、注云、此句ハ道ノ正体ヲ拳ス。乱トハ人ニ在テ道ニアラス。見ト知ト同道ノ全体ニアラ

ス。道ハ三世ニ亘テ、明々歷々、孤迥々、円陀々、活饒々、面前壁立万仞ニシテ定乱ナク、見知ヲ離ル。只直下ニ透得スルヲアタワス。身

心ヲ静ニモ道ヲ得ント欲ス。不_レ免截_ニ頭_ニ、活ト求ルヲ（三九、オ）ヲ哉。亦動用ヲ認テ道ト作ス。不_レ免、認_ニ賊_ニ為_ニ子_ニヲ、餘ノ惡知惡覺ヲ

生_メ、意想陰界ノ中ニ向テ思惟計較スルハ、皆人ニ在テ道ニアツカラヌ故ニ、道ニ無定乱法離_ニ見知_ニト云。你即直下陰界意想ノ外ニ透得セ

ハ、見聞覺知、語默動靜、皆是那伽大定ノ中ノ三昧、正受本定乱ナク、

○言句相投都無實義ト者、三世ノ諸仏、六代ノ祖師、機ニ當テ一言半句ヲ垂ル、皆這活句不思議定乱見知ヲ离レタル没意智ノ妙ヲ吐露ス。故ニ言無展事句不投機、故ニ言句相投都無實義ト云。若實ニ一言一句ノ人ノ為ニスルアラバ、祖師ノ言教皆是一死句ナルベシ。活句ニ非ス、悉之。

○從上諸聖心如白月、口似醉人、注云、寒山子云、吾心似秋月、口似醉人ト者、言句ニ実ナキヲ云。宝鏡三昧云、終不得物、語未正故ナリ。譬ヘハ嬰兒ノ者ヲ索ガ如シ。語アリト雖モ、語ハ正シカラサルガ故ニ、終物ヲ得ス。仏祖ノ言語モ亦如是。

△六塵——覺、注云、這句ハ見聞ニ因ンテ挙スル也。雪豆主丈子是塵有^ニ什^ハ廣^カ過、即今現前ノ大衆、眞歇禪師拂子ヲ堅起スルヲ見ミ、雪豆ノ手中ノ主丈子ヲ拈スルヲ見ルニ因ンテ、眼對スルヲ教ニ色塵ト名ク。故ニ主丈子ハ是塵ト云。衲僧主丈子喚作^ニ主丈子^ト、什^ハ廣^カ過。實ニ過ナキヲ得ル^ルハ、一ノ妙ニ達スル故ニ、恁^ニ廣^カ云、衲僧家這箇ノ妙ヲ得

スシテ、主丈子ヲ喚、作^ニ主丈子^ト、入地獄^ニ如射箭、所謂妙ト者、活處不思議ノ妙也。故ニ過已ニナクンバ、須^ニ主ト云辨^ス。既^ニ不思議ノ^四○、オ^ハ妙ヲ得ツレバ、糞掃堆頭、丈六金身、一辺ニ拈放スル^ルモ又亦得リ。又扶起スル^ルモ亦得、赤肉團ノ上、無位ノ真人、壁立千仞魏々

堂々、煒々煌々ナルモ、我若シ主ト作時ハ、你ニ一著ヲ放過ノ三十棒ヲ輕恕ス。是等ノ手段一タニ衲僧ノ全主作得ル時ノ正令也。丈六ノ金身ヲ糞掃堆頭ニ抛却シ、無位ノ真人ヲ一著ヲ放過スル、皆主家ノ正令全提ノ神機妙用也。直饒四方八面ナルモ、正好連架打、注云、丈六ノ金身、無位ノ真人ノミ非ス。一人アツテ那陀忿怒ノ身ヲ現メ、四方八面

ヨリ来ルトモ、正ニ好シ。連架打。眞歇掃子ヲ擲下ノ云、我也不可盲架瞎棒去也。注云、眞歇老師放去太峻収来太過、○糞掃堆頭、丈六金身ト云ニ、二ノ眼アリ。一ニハ糞掃堆頭ニ光ヲ添テ丈六金身ト道^四○、ウ^ハ著ス。故ニ大地ヲ變ノ黄金トナスト云ガ如シ。一ニハ丈六ノ金身ヲ糞掃堆頭ニ擲却ストモ見ルベシ。此眼ハ不親。

○衲僧家主丈子ヲ橫拈堅拈云、若シ主ヲ欠ハ、用ユル^ルヲ得ベカラス。故^ニ芭焦^ハ和尚ノ道ク、你ニ有^ニ主丈子^ト、與^ニ你主丈子^ト、你無^ニ主丈子^ト、奪^ニ你主丈子^トト云ハ是也。你ニ主丈子有ト者、你ニ主アルヲ云。故ニ雪豆云、主丈ハ是塵、有^ニ什^ハ廣^カ過、過已無應須辨主、你若主、作得ル時、糞

掃堆頭、丈六ノ金身ヲ一辺ニ拈放シ、赤肉團上、無位真人、放過一著。タトヒ三頭六臂ヲ具スル底ノ漢、四方八面ヨリ来ルトモ、正好シ、連架打、全主ノ令、如斯。

△知者——縛、注云、大徹證ノ人ハ與仏不^レ別、是ヲ正徧智、覺者ト称ス。又ハ一切智人ト名ク。此人ノ日用行処ハ、無漏無為ニ^ノ妥貼安穩ナリ。愚^四一、オ^ハ人ハ心外ノ法ニ眩惑セラレテ、六眼為^ニ六塵^ト、染汚セラレ、オ六意識分別愛着メ、如^ニ蠶作^ル繭^ト自纏自縛メ、解脱期アル^ルナシ。故ニ愚人ハ自縛スト云。良久云、識取鉤頭——星、注云、如何是祖師意、良久云、四祖来也^ハ。切ニ忌、四祖ノ言句ノ中ニ去テ、誰縛^ル你^トト云処ヲ理會スル^ルヲ。

△法無異法——著、注云、大道ノ本ハ古今平等ノ三世ニ亘リ、十方ヲカ子テ同異アル^ルナシ。從生至老、只這箇千法万法、只是一法、你一昧平等真空無人無我ノ道ニ徹證セス。人我識情ヲ恣^ニニ^ト這个ヲ愛シ、那个ヲ嫌ヒ、互相ヒ憎愛ノ徒ニ人我ノ見ヲ增長ス。平等無我ノ法ニ達

セザル故也。○以^ニ自性^ヲ淘^ニ自性^ヲ、注云、自性平等無我ノ法ノ中ニ、
這个ノ法ヲ愛シ、那个ノ法ヲ嫌、豈ニ自性以テ自(四一、ウ)性ヲ淘
シエラフニ非ス哉。你カ見、平等ノ法ニ達セザル故ニ、如此。良久云、
一言尽十方——揚、注云、必竟如何是一言尽十方処。良久云也、不爭
多、你真歇和尚尚良久ノ処ニ眼ヲ着ヨ。絲毫モ人之為拳揚スル処有^ハ。
是真个尽十方ヲ尽一言ト可^レ謂。

○爭恠得別人、注云、無異ノ法ノ中ニ、你自異兒ヲ生シ、我情我見ヲ
起シテ、這个ノ法ヲ愛シ、那个ノ法ヲ嫌ヒ、徒ニ人我ヲ增長シ、互ニ相毀
謗ノ三途ノ業ヲ造ル。你自ノ顛倒ナリ。爭別人ヲ恠得^ン。

△將心用心——錯、注云、這一句ハ猿引ガ見処ニ頗相似リ(ト)雖モ、祖
師ノ言句実ニ不^レ如此。祖師以心用心、豈非大錯也、ト云ハ、心ヲ用
テ別ニ求ル^ヲ痛拶^ノ、覲面^ヲ劍^ヲ揮フ活句也。凡心擬シ、(四二、オ)
意ヲ著ル^ヲ截斷^ノ、白刃ノ上ニ身ヲ翻縛セシムル句也。

○赤肉團不解聽法、注云、赤肉團ト者、你ガ四大也。四大本不^ニ聽解^セ。
聽法ノ者是阿誰。此句モ祖師ノ道著スル処ハ、活句ノ上ニ用ル語也。

切忌、你ガ暫時陰界意想ノ中ニ、五蘊山中ノ主人公ヲ認テ、祖師ノ心
ト道フ処ニ如同スル^ヲ。言語相似ト雖モ、用処太別ナリ。詳^ヨ之。

△迷生——惡、注云、迷人分上ニハ、寂ヲ認テ道トス。頭斬寬活動乱
恣ニノ道トス。亦是認賊ヲ為子。大徹證ノ人分上ハ喧ト靜ト好ト惡ト
打テ一片ト作ス。什^ハ差異カアラン。故ニ無好惡ト云。○常憶江南三
月裏……道人分上色々依旧甚^ハ迷ト悟トヲカ見^ン。如是不涉迷悟處、
常憶——香。

△一切二边——酌、拈云、未放千得(四二、ウ)テ穢密ノ処ニ至ラサ

レバ、面前ニ有禪、有道、有迷、有悟、有得、有失、有定、有乱、有
凡、有聖、對待ノ二边何日カ絶スル^ヲ得^ル。参得スル底、戲乱ナラス
ト云^ヲナシ、必竟^ノ如何。巨鼈不在江湖裏……云意ハ、一切ノ迷悟凡
聖、得失是非、四^ニ惟^ニト度^ニノ裏ニ在ラス。堪^ハ咲、時人ノ陰界意想ノ中ニ
去テ、大道ヲ得^{ント}欲スル^ヲ。

△夢幻——捉、注云、有迷、有悟、有仏、有衆生、及外有山河大地、内
有四大五蘊、皆是空中ノ花、実体アル^ヲナシ。你何把捉スル^ヲ勞セ
ン。你若大無心無事安穩ノ地ニ到ラバ、什^ハ廣ヲ喚テカ山河大地ト作シ、
喚^ニ什^ハ、作四大五蘊、喚^ニ什^ハ、作三界六道天堂地獄。已ニ迷悟凡聖
天堂地獄ナクンバ、仏モ亦不出世、祖モ不西来也。何処カ衆生マテ度
スベキカアラン。仏祖已ニ(四三、オ)ナクンハ、世間何物カ真トナ
シ、実トナス物アラン。故ニ夢幻——捉ト。

△得失——却、注云、夢幻空華、得失是非ヲ放却スル時、世間有為ノ
法ヨリ上仏祖ニ至ルマテ、底ヲ尽テ放却シ^ル。此時放下ノ道理モ亦
無。若放下ベキ一物アラバ、此物ヲ放下^ノ安頓ノ処アルベシ。若一物
アリ、安頓ノ処アラバ、実ニ是放不下ナリ。故ニ真歇放倒那裏ト一拶
ス。可謂針頭ニ削^レ鋏^ヲ、這箇道理、直須悟得スベシ。悟得ハ一悟モ亦
不消、你情識意想ヲ以テ、放下ノ処ヲ思量ト度ストモ、落^レ処ヲ知^ルヲ
得^ン。所以、嚴陽尊者問^ニ趙州^一、一物不将来時如何。州云、放下著。尊
者云、一物不将来、放下箇什^ハ。州云、恁^ハ兩肩擔^テ去。尊者言下大
ノ、便落^レ処ヲ知^レ得^ル。

○示衆云、把定乾坤眼——毫、注云、此句ハ向上全提ノ句ニ非ス。那
(四三、ウ)辺ノ事ヲ拳スル也。那邊事ハ、塵劫已前更已前、混沌未

分世界未現、日用未照已前、万機収ムルヲ得ス。万縁類ルヲ不得。

唯親證親到ノ人、綿々密々トメ、無漏無為、諸ノ滲漏ヲ絶メ、保任スル故ニ、把定乾坤眼——毫ト云。見ヲ離レ、情ヲ起、純絶點ナリト云。

故ニ鏡清問「靈雲、混沌未分時如何。雲云、露柱懷胎。清云、分後如何。雲云、如「雲ノ點大清、異ニ、清云、太清卻受點也、否。雲不對。

清云、恁广則含生不来。雲亦不對。清云、直是純清絶點時如何。雲云、猶是真常流注、云、向上還有事也、否。雲云、有。清云、如何是向上事。雲云、打破鏡來與哀你相見、豈是非那辺事耶、又ハ混沌未分ト云。

又ハ露柱懷胎ト云。今向上ト問ハ、那辺事也。宗師家賓主未立、法堂前草深一丈ト拳スル、向上ノ事ニ非ス。凡向上（四四、オ）ト拳スル

ニ、処ニ随テ用ヒ、換ル眼多シ。語ノ來勢ニ随テ是ヲ辨スベシ。渾崙ニ吞「棘」莫レ。○擬議即——萬理、此句ハ皆諸ノ一機一境那辺ノ事ニ當リ得サル処ヲ拳ス。尋常ニ活句ヲ拳ストニ不同、具眼者分明ニ辨取セヨ。又一意アリ。古人云、乾坤把定、十方一色云。此語ヲ見ル時

ハ、無孔鉄槌一色辺ノ事ヲ拳ト云、見ツベシ、未十分ニ分曉。

△眼若——除、注云、三世ノ諸仏出世種種々ノ法ヲ説キ、歷代ノ祖師出興ノ、種々ノ機境ヲ示ス、皆一切衆生本生死ナキニ、生死ヲ見、夢ニ六道輪回ノ業報ヲ感スルニ因テ、仏祖カレヲアハレンテ、種々法ヲ説テ夢幻輪回ノ衆生ヲ度ス。所以、因「誰到シ得ルト云。（四四、ウ）

○譬良醫ノ藥ヲ以テ病ヲ除クカ如シ。病苦除キ了レバ、藥マタ無用ナリ。諸仏ノ夢幻ノ法ヲ説テ、夢幻生死ノ衆生ヲ度スルモ、亦如レ期。幻病已除了レハ、幻藥モ亦夢幻ナリ。三祖恁广ニ説キ、真歇與广拳ス、都是夢中ニ説夢。故ニ喝云、惺々着。真歇末後ニ此一句ヲ下

サスンハ、真歇モマタ夢中ニ困在スルヲ免レシ。

△心若——如、注云、道人ノ面前、一切ノ夢境スベテナシ。眼開テ不睡力故ニ、道人ハ心ニ異ナラサル故ニ、諸縁万境、尽皆一如ナリ。四頭寥々トモノ物モナク、一法ノ縁ヲナシ、對ヲナスナシ。庵内ニ人シツカナレハ、庵外ニ鳥啼花紅ナルヲ不妨。スベテ春ノ意ノ景ニアルニ似リ。噫。此語ハ病語ニ非ス。只道人ノホメテ恁广ニ云也。此語ハ

長（四五、オ）沙禪師、與首座遊山ノ歸時ノ問答語ナリ。

△一如——縁、注云、此句ハ道人無心ニ徹證メ、諸縁ヲ坐斷メ、一如ナル時節ヲ、雖「然」如是、人ノ這裏ニ坐在ノ轉セサランヲ恐テ、真歇老師它ニ一撈ヲ與テ道、合「取」皮袋。合取セヨト云句ハ、先句ノ上面ハ三祖ノ一如鉢玄兀个忘縁ト云ヲ一撈ス。実ニハ宗師ノ抑揚、指

柳罵李ヲ語也。タトヘモニヒタナク、袴ニ口ナク、頭上ノ青灰三五斗、與广ニ玄途ヲ履踐メ東西不辨、南北不分、似嬰兒純々地ナリトモ、只枯木岩前、目ニ白雲ヲ視テ、一生擔板漢ト做得リ。有「什」广救処、更須位ヲ轉メ、全身声色ノ裏ニ負墮シ、声色ノ裏ニ坐卧シテ、自在滲漏ナキヲ得ベシ。故ニ風定テ動セサレトモ、落花ノ東ニ飛西ニ飛ニマカ

ス。深山人ナウシテ虚寂ナリト雖モ、鳥啼テ山イヨクカスカナリ。道人（四五、ウ）内若虚虚ナレハ、外靈ナルヲ不妨、故ニ虚ニノ靈ニ、空ニノ妙ナリト云。

△萬法——然、注云、此語「真歇ノ解注、皆徹證道人面前ノ事ヲ拳ス。天地一指、万物一馬ト云モ、道人分上、心ト法ト打テ、一片トナル時、天地一指、万物一馬、壞六合出胸中——不「及」細注」スルニ。

△泯其所——此、大徹證処也。注云、万機泯絶メ、千聖モ不携、這般

ノ境界、此況ヲ以テ方比スベカラス。豈口ヲ開テ説似スベンケンヤ。故ニ南岳ノ云、説似一物即不中、如シ人飯レ水冷暖自知^ガ、不^レ可^レ説^ニ似人^ニ。這処三世ノ諸仏モ説キ不^レ出、六代ノ祖師モ拈^レ不^レ出、一切語言機境ノ類ノ中ニ収ラサル故ニ、喚テ作^ニ一物^一即不中、類^レ齋混^レ不^レ得。驚鷺立^レ雪非同色、明月芦花不^レ似^レ他^ニト云。着眼看ヨ。(四五、ウ)

△止動——止、注云、大無心無事不可思議不忘失無功用ノ三昧正受スル則^レハ、動相ヲ求ルニ不可得ナル故ニ、動ヲ止ルニ動ナシト云。動已ニナクンハ、止ヲ求ルニ亦止ナシ。這箇境界、陰界意思ノ外脱出メ、淨裸裸赤洒々、百千万重ノ貼内ノ汗衫子ヲ脱下メ、天真ノ妙ヲ得ル、

這ノ田地ニ到ル^ヲ得ベシ。情識意思^(思)田^(思)惟^レト度メ、量^リ得ル^ル處ニ非ス。故ニ云、這箇些子如^ニ大火聚^一、疑^レ之即死生^ニ度^レセント云。這ノ徹證不思議ノ境界、語默動靜ノ中ニアラサル故ニ、外道問^レ仏不^レ問^ニ有言^一、不^レ問^ニ無言^一、世界良久^ス。外道便悟去及^ニ广竭掩^レ室毘耶杜^レ口、皆這今ノ時節ヲ漏逗ス。予先年在^ニ肥州淨土寺^一默山ノ號^ヲニ云、從來妙唱不干舌、不裂——露出一尖頭、不思議不妄失ノ般若現前スレハ、一切語默動靜、一々ニ不思議ノ妙ナラスト云(四六、ウ)ナシ。晦堂禪師云、咳唾揮臂、皆祖師西来意ト者是也。你若未陰界意思ヲ出スンハ、一切ノ言語動靜、一々ニ生死ノ繫絆ナラスト云^一ナシ。動ニ滯リ、靜ニ滯リ、出徹自在ナル^ヲアタワス。這箇ノ境界、真実ノ落處知ント欲ハ、妙悟ノ始^ヲ得ベシ。

△兩既——爾、注云、語默動靜ノ二辺ヲ脱出メ、陰界意思ヲ離レハ、不思議ノ妙智現前ス。日用ノ間、機輪施轉メ、阿轆々地ニモ也不^レ見、一モ亦不^レ見。故ニ修山主ノ道、二破^レ不^レ成^レ一ト云、一法鎮長存ト

者、ニヲ轉メ一トナシ、一モ亦轉メ不^レ立時、不思ノ妙現前スル也。這一妙ヲ一法鎮長存スト云。這一法ハ一妙ナリ。一二ヲ以テ思量スベキ處ニ非ス。○若人一々會永劫受沈淪、注云、此文章未分曉、意ハ、若人ニヲ破テ一ト作テ、一法ニ住在セハ、永劫ニ受沈淪ベシト也。此意歟。△示衆云、田地穩——留、無地無針神通游戲底ノ人、如^ニ枯木生花^一別迎^ニ春色^一、死中得^レ活。這箇ノ二人、野老門下ニ即得^レ。若シ衲僧門下、張^ニ漫天綱子^一、陷^レ虎^レ之機^ヲ施サハ、野老安貼ノ活計、即得^ニ七花八裂^一、荊棘林ヲ透得セハ、是好手。荊棘林ハ衲僧格外難通ノ處ナリ。奪語ニ非ス。悉^レ之。

△究竟——則、注云、此句衲僧格別ノ機ナリ。所謂百尺竿頭進^ニ一步^一、便見八角磨盤空裡走、金毛獅子變成^レ狗、此ノ如^ニノ神機妙用^一、皆究竟窮極ノ處ニ到得^レ、窮而變シ、變而通ル時、大用現前^ニ不^レ存^ニ規則^一、我且問^レ你、現今須弥山走^ニ入^ニ鉢盂裏^一、你還^レ見^レ廣。良會^ニ北瞿盧洲打鼓上堂長連牀上疊^ニ足^一喚^レ飯、可^ニ以^ニ助^ニ國王無為之化^一、報^ニ仏祖不^レ報之恩^一。雖(四七、ウ)然如此、須是實到此田地始得。

起心平等——息、注云、大歇大休大安穩無為無事地ニ徹證シヌレハ、起心平等ニノ日用無間^(ハテ)、只水長船高、泥多佛大ナルノミナリ。運得ト云用ヒ得ルヲ云。

△孤疑淨尽——直、注云、已徹證セハ、有^ニ甚孤疑^一、面門ヲ拶破ト者、百千万ノ疑破ル、處ヲ拳ス。別無^ニ道理^一、若シ古人ノ言句葛藤ノ中ニ去テ理會セハ、尽是野狐ノ精也。滿肚是疑、甚^ニ廣^ニ出徹明淨ノ時^一カアラン。直須^ニ悟始得^ニ無^ニ疑^一、以^レ悟^ニ則^ニセ^一ス。一元字脚モ胸中ニアラハ、是正信ニ非ス。如何是出徹明淨ニノ脱体现成スル處。江上脱来堪^(タ)昼^(タ)處、漁

人披得一蓑婦。

△一切——憶、注云、已大徹證底ノ人ハ、全軀淨裸々地、起心平等ニ
ノ、念々裏許ニ在リ。念々不昧日用、轉轉々地、一切不留、大惣地不
忘失（四八、オ）三昧ヲ正受ス。甚廣記憶スベキカアラン。不忘不記、
大阿ノ劍ヲ揮ガ如シ。擬議スレバ喪身失命ス。如是ノ路子ヲ蹈著スル
ヲ、那伽大定、無功用大解脫三昧ノ力ナリ。此一乘ノ大活路ヲ蹈著ス
レバ、日用之間、光燦々地、面前明々了々トメ、堆積山積岳、本来朕
迹形段ナシト雖モ、淨裸々地現成メ、遮蓋ノ処ナシ。故ニ堆山積岳、
争カレ不_レ留ト云者、泯亡スルヲ云。_{（久云）}不_レ可_二怨_一、注云、這道処ハ
無舌人解語ナリ。言語ヲ以テ通ベカラス。猶有_二露柱_一證明ス。三寸ヲ
假テ道ハスト雖モ、甚声如_二雷_一。此道処ヲ真歇老師蓋覆ノ云、不_レ可_二甚
廣道_一。眞歇和尚、無舌人ノ解語ヲ饒舌ナリト云ヲ、蓋覆スト見ルベシ。
△虛明——力、注云、此句モ大無心徹證ノ人、荷擔ノ事ヲ拳ス。此真
實徹證ノ処、人ニ説似スベカ（ラ）ス。嚙子ノ嚙_二苦瓜_一如シ。故ニ縮却
（四八、ウ）舌頭_二セヨト云_一。○江月照松風吹永夜——此句ハ大徹證
ノ道人、分上面前ノ境界ヲ拈云、五祖禪師頌云、白雲山上月、太平松
下影、永夜對_二清風_一、摠成一片境、這類語也。

祇陀開山御注_云可_レ秘_云

水月文章可置之

大陽明安禪師三句畧云、

才一句 道得 獅子嘯呻

才二句 道得 獅子踞地

才三句 道得 獅子返擲 縱_モ世也欵、周_二十方_一擒也、

坐_二在一_一處_二

△非思量——測、注云、這沒意智不思議ノ妙、不可_二以_レ智知_一、不_レ可_二
以_レ識測_一、雖然難思之法終月李四（四九、オ）張三、猫兒狗子ノ処ニ
歷クトメ現在ス。何況你諸人ノ面前ヲ哉。故ニ隨_レ後_二來_一ルト云。○你
道是甚廣、注云、甚廣云者、非思量ノ妙ヲ拈。雪豆云、這僧下坡不_レ
走、雲門快便難逢、注云、非思量ノ処、如_二磐石火_一、似_二閃電光_一、你
ガ意ヲ措_レ処ナシ。三世ノ諸仏、歷代ノ祖師、仰贊スルニ分有リ。這僧
問得テ親ク、雲門吞得テ妙ナリト雖、三祖大師ノ道処ニ當リ得ス。故
ニ這僧下坡不_レ走、雲門快便難逢ト道フ。可シ_レ知、思量不_レ及_二甚俊機_一、
電光石火追_レ不_レ及_二ル_一如_二斯_一。雲門猶是俊流ニ非ス。何況你諸人雲板
三下ヲ聴テ、法上ニ排立ス。待_二箇甚廣只開眼_一、棒ヲ喫スルヲ喫不_レ
如_二此痴漢百千萬箇ヲ打殺ストモ_一、有_二甚廣罪過_一。○問処如_二函_一、答処如_二
蓋_一ト者、這僧ノ問処、雲門ノ答処ヲ云。○乾坤把定スト者、タトヒ函
蓋相稱（四九、ウ）ヒ、乾坤把定メ、水ヲ泄_{モラシ}テ不通モ、未_二夢見_一三祖_一
在リ。眞歇如此拳スルハ、三祖ノ道処ヲ褒揚スル句也。別ニ奇特ノ意
アルニ非ス。○且道利害有何処、注云、利害ト者、大唐國裏ニ東家西
家ニ朝暮ニ云世語也。人ノ失錯スル時云フ語也。禪錄ニ利ト云ニ、二
ノ意ア（リ）。諦訛ヲ利害ト用ル時モアリヌ、錯ヲ利害ト用ル時モアリ。
語脈ノ來勢ニ隨テ、臨テ可_レ見。今利害ト云ハ、諦訛在_二甚廣_一ト道也。○
影_二搖千尺竜蛇_一動_二——寒_一、注云、這句ハ三祖ノ非思量処、識情難測
ト道著スル一句、高_レ而彌高ク、奇ニメ更ニ奇ナル処ヲ拈ス。示衆云、
隱蜜全該、現成公案、注云、十成隱蜜ノ処ニ徹證スレバ、自己目前絲
毫ノ隔テナシ。故ニ隱蜜全該、現成公案ト云。高低普應、日用無_レ窮ト

者、已ニ自己目前(五〇、オ)打テ一片ト作テ受用スル則シテ、空劫已前ノ事常ニ在リ目前ニ、光燦々地毫モ不レ昧、高低普應ノ日用窮ナシ。這箇ノ境界大休大歇大徹證ノ人親證親倒処ナリ。直饒流掃影ノ機ニ誇劍刃鋒鈍ノ辨ヲ説得ノ縦横ナリトモ、那辺ノ事ニ當リ得ベカラス。這親證ノ処ヲ究得、隔蜜十成ナルヲ得ント欲セバ、兩個泥牛入海去テ、無レ朕無迹、無地無針消息、迥ニ絶シ、氣息已断テ、些子ノ相應アルベシ。若絲縲モアラバ、夢ニモ那辺ノ事ヲ見スベカラス。故ニ諸天捧花無レ路。广外瀆ニ覩不レ見、此境思言ヲ以テ通スベカラス。寂默ヲ以テ造ルベカラス。所以道、結草乘道人ノ志彫沙、無レ鏤玉之談ト云。此句ハ衲僧針頭ニ削レ鏤之句也。詳之。○結草、乖道人ノ志、彫沙無レ鏤玉之譚ト云句ハ、僧問夾山、祖意教意、是同、是(五〇、ウ)別。山云、結草道人一草ヲ結ハ、道人ノ志乖ト云。此処ハ心地觀經ヨリ出タリ。經ノ意ハ、上品ノ道人ハ露地樹下ニ居ス、中品ノ道人ハ岩岨ノ中居ス、下品ノ道人ハ三間ノ茆屋ニ居ス、ト説ク。夾山所以結草道人ノ志乖クト云、是ハ答話ノ字面也。実ニ夾山ノ意ヲ論セハ、十成ニ窮シ得テ、地ナク針ナキ処ヲ答。所謂上ニ把茆ノ頭ニ蓋ナク、下ニ針ヲ卓ル地ナキ処ヲ祇對ス。何況三乘十二分教沙彫ル、言語ノ中ニ去テ祖師ノ意ヲ求メハ、遠シテ遠シ。故ニ十成ニ窮シ、得地ナク針ナク、消息絶シ、氣息不レ断ハ、直饒流掃影ノ機ニ誇リ、劍刃鋒鈍ノ辨ヲ説得テ、七縱七横ナリト、大ニ有レ一人、未レ許ヤ在リ。牛頭横説堅説、未ダ向上ノ事ヲ説得ト云。○向上人方レ明ニ向上ノ事、有レ透関底、這向(五一、オ)上ノ人ト云ハ、那辺親證ノ人、方ニ那辺ノ事ヲ明ベシ、ト也。

△真如——他、注云、真如法界——它ト者、非思量ノ妙処、已現前ノ不忘失無功用ノ大惣持三昧ヲ正受スレハ、尽乾坤大地、纖毫ノ過患ナシ。脚ニ信テ踏著ス。歩ク出身ノ一路ニ非スト云ナシ。築著碁著、甚广滯碍ノ処カアラン。十法沙界、只是箇ノ衲僧轉身ノ処、成道ノ処、無漏堅固大解脫ノ宝殿、大安穩ノ道場ニ非スト云ナシ。故ニ真如法界自ナク它ナシト云。○且莫茶胡、注云、真歇禪師、三祖大師ノ真如法界無自它ト云見テ、人ノ杜撰座主ノ見解ヲ作テ、三祖ヲ見シテ恐テ、且莫茶胡ト三祖ニ一撓ヲ与ル也。其後ノ一絡索ヲ攀スルハ、皆主座(座主)ノ見解ヲ攀ク。別ニ它ナシ。故不能注レ之。○青翠竹尽是真如、又作〔麼〕生。此語平易ニノ極テ難見。其故ハ不清(五一、ウ)淨ノ者ハ、青クタル翠竹ヲ真如ト會ス。如是見解、天下如麻、似粟。今真歇和尚ノ道出スル一句ハ、覲面當機、信牛拈來リ、信口道著ス。甚广也鼻カアラン。具眼者辨之。○古人云、青翠竹尽是真如、攀黄花無非般若。此語若黄花ヲ指テ般若ト作シ、翠竹ヲ喚テ真如ト作サハ、十成ノ死語也。宗門ニ真如ト云ヒ、般若ト道ヒ、翠竹黄花ト道著スルハ、只一柄ノ劍刃上ノ語也。心ニ擬シ、意ヲ著テ理會セハ、不免刃下ニ死スルヲ。故ニ鹽官云、思而知、慮而解スルハ、日下ノ孤燈、果然トノ照ヲ失ス。故ニ真歇禪師末後ニ提起ノ云、一著不レ到處滿盤空用心スト云、意ハ、這沒意智不思議ノ話句ヲ參透セス、意ヲ作テ、三祖ノ道処ヲ理會セント要セハ、豈空用心スルニ非ス哉。碁ヲ著カ如シ。一著不思議ノ神仙ノ妙手ヲ欠ハ、滿(五一、オ)盤空ク用心ス。勞而無功、我が大法ノ事モ如此。三乘一二分教、一千七百祖師ノ語言葛藤ヲ理會メ分曉ナリト雖モ、活処ノ妙ヲ得サレバ、

皆陰界意想ノ中ノ知見碍解ナリ。

△要急——二、注云、急要相應ト者、急ニ端的ヲ知ント要セハト也。

不二ト者、宗門極則処、教中十二不二門等ノ義路、道理ヲ以テ理會スベキ処ニ非。文殊問維くく、○猶嫌少在那、注云、真歇與二道フ、

端的ノ意ヲ知ント要セハ、維二廣ノ文殊一一摺ヲ與ル処ヲ見ヨ。維二廣經

ニ、諸ノ大菩薩及聲聞對維二廣、談不二法門、時ニ諸ノ開士一一二維二廣

ニ呵セラレテ、飲氣吞聲、是後文殊所見ヲ述テ云、凡言說ヲ以道ハ、

皆是二二ナリ、不是不二門云。維二廣不肯、作二法、文殊還問維二廣、如

何是不二門、維二廣拠座良久ス。(五二、ウ)今真歇嫌少有那ト道著スル

ハ、維二廣文殊ヲ不肯二處ヲ再挙スル也。今先字面ハ三祖大師信心銘ト題

名ヲ下ヨリ許多ノ葛藤翻歎ノ、三祖末後ニ要急相應唯言不二ト結ス。

真歇是祖師ノ嫡骨、殊三祖舌頭ノ落二處ヲ知テ道ク。猶嫌少在那ト拈ス。

太ニ有眼目着眼看ヨ。

○猶有一人呵く大咲若——、注云、半前落後ノ漢、若維二廣ノ默二處ニ坐在

セハ、鈍鳥栖芦。故ニ真歇云、無量法門、無辺妙義、不消一默一明得

リ。雖然如此更須知音一人呵く大咲ト云。故ニ德山圓明大師道、及尽

去、三世諸仏、口掛壁上、猶有一人、呵く大咲、識得此人、一生參学

事畢、是真歇和尚ノ拈スル類則ナリ。大ニ須子細ニ具眼者辨取セヨ。

○不著草鞋錢者、罷參(五三、オ)ノ事ヲ云。

文殊對維二廣談二不二門一親シト雖モ、猶涉唇吻。故ニ維二廣呵二セラル、ノ

ミニ非ス、真歇和尚ニ、纔涉唇吻早是死門非二活路一ト消ラル。猶嫌少

在那ト云言中ノ響ハ是也。又別ニ注二云、真歇和尚ノ道ク、猶嫌少在

那、○那ノ一字、恐是寫本ノ譌訛ナリ。只猶嫌少在ト四字ニ道著ス

ルニ、真歇和尚ノ摺ノ意、十分ニ現成不。其旨ヲ論スルニ、真歇和尚、

三祖ノ要急相應但言不二ト道ヲ、猶涉二唇吻一、故ニ猶嫌少在ト三祖ニ

一摺ヲ与フ。當時維二廣文殊一一摺スルガ如シ。此注親シ。是ヲ本トス

ベシ。

△不二皆——容、注云、言外不二ノ門ニ親到セハ、三世ノ諸仏、歷代

ノ祖師、單伝直旨ノ活法ヲ明メ得ン。無量法門、無辺ノ妙義、只(五

三、ウ)這是ヲ主トス。故ニ馬祖道、風有言句尽是提婆宗、只這箇為

這維二廣語ノ活句、古今ヲ裂破シ、十方三世ヲ該括スル力量アリ。故ニ

一口ニ道尽無滲漏ト云、括二處ヲ禹力不到ノ處、河水平落流向二西ト云。

△十方智——宗、注云、此宗ト者、仏祖親到不思議ノ妙處也。

○一出一入、東湧西沒、應變自在也、是周婆道底、注云、官路無私、

放過即不可。

(裏扉)

延享三寅六月吉日

鳳仙寺會下 辨宗的(在判)